

子育て世代が安心できる環境を整備するために 地元新聞社が子育てを応援するウェブサイト開設。

少子化に伴う問題が各方面で指摘されているが、若い世代が安心して子育てできる環境を整えることも、問題解決に向けた一歩と言えるだろう。山陽新聞社では地域の企業やサークルなどと協力しながら、子育て世代を応援する会員制のウェブサイト
を立ち上げた。地域社会の公器として新聞社が果たす新たな役割として期待される。

地元新聞社による子育て支援サイト開設。

2005年に人口減少社会に突入したとされる日本。平均寿命が伸びているにもかかわらず人口が減り続ける根本的な原因は少子化にあるが、若い世代が安心して子どもを産み、育てるための社会的な環境が必ずしも十分でないことも間接的な要因である。いかにして出産や子育てに優しい環境や制度を整えていくかが、これからの日本の課題のひとつと言えるだろう。

人口の減少は、都市部よりも地方でより顕著である。地域社会の存続という意味でも、地方こそ、この問題に真剣に取り組まなくてはならないが、その試みとして、岡山県を拠点に中国・四国地方に購読者を持つ「山陽新聞社」では、おかやま子育て倶楽部実行委員会を立ち上げ、ウェブサイトを中心とした会員組織「LaLa Okayama (ララおかやま)」を今春、スタートさせた。



4月24日に開催された「ママのためのOne Day Party」

「岡山県でも年間2万人を超えていた出生数が、現在は16,000～17,000人に落ち込んでいます。子育てに自信が持てないという若い女性の声も少なくなく、そうした方々が安心して子どもを産み、育てられるよう、地域を挙げてバックアップしていきたい。そうしたことも、地方紙としての社会的使命のひとつではないかと考え、「子育てママのHAPPY CLUB」と銘打ち、LaLa Okayamaを発足させました。今後はこのサイトを中心に、子育てが明るく楽しくなるような情報発信や会員同士の交流、イベントなどを行っていきたくと考えています」と、山陽新聞社の福場雅之さんは話す。

LaLa Okayamaは構想から発足まで約1年を要したというが、その告知や会員募集のためのチラシやポスターの制作費のほか、入会促進キャンペーンのプレゼントの取り揃えなどに、AJOSCと岡山県遊技業協同組合からの助成が役立てられた。プレゼントのひとつであるデニムエコバッグには、AJOSCのロゴが入っている。

若い母親の視点に立ったイベントが大盛況。

「岡山県、広島県、香川県に住む妊娠中の方と、6歳までのお子さんがいる方で、PCや携帯、スマートフォンが利用できる環境にある方なら、どなたでも会員になれます。父親もOKです。また、LaLa Okayamaに入会されると、すでに5万人に加入いただいている「山陽新聞さん太ク



会場では、子どもを連れて若いママさんたちが数多く詰めかけた



「LaLa Okayama」への入会募集を告知するポスター

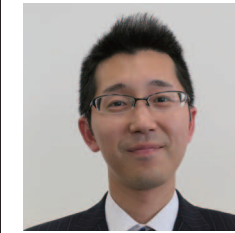


入会促進キャンペーンのプレゼントの一つ
AJOSCのロゴ入り「デニムエコバッグ」

ラブ」にも同時加入となり、さまざまな特典が受けられます。初年度は会員数5,000名を目標にしていますが、今後も当社を挙げて継続的に取り組んでいきたいと思っています」と話すのは、山陽新聞社の平井健治さん。父親も会員になれるということで、厚生労働省が進める「イクメンプロジェクト」の啓発・普及などにも寄与することが期待される。

そのLaLa Okayamaのオープニングイベントとして、4月24日に山陽新聞本社ビルで「ママのためのOne Day Party」が開催された。フォトグラファーによるフォト撮影会や物々交換、音楽会やショーなどのほか、岡山を中心に活動する30団体近いママサークルが一堂に会し、それ

担当者より



**LaLa Okayamaの
周知・浸透に
大いに役立ちました。**

山陽新聞社 営業局
広告本部 広告部
平井健治さん

地元へ密着した新聞社として、安心して子育てできる環境の整備に協力していきたい。今回の助成金は大切に使用させていただきました。また、歳末助け合い義援金などで岡山県遊協さんにはお世話になっていますが、今回新たに助成していただいたことに感謝しています。今後も、末長くご支援いただければ幸いです。

それぞれのブースごとに多彩な展示やショップを展開した。会場には子どもを連れて若いママさんたちが数多く詰めかけ、大盛況となった。

子育て支援のイベントといえば、勉強会や講習会のような堅いものになりがちだが、今回のように気軽に参加できる楽しいイベントは、日ごろの子育ての疲れを癒すという意味でも貴重なものである。「子育ての日常にちょっとした変化を与えられるような、若いママさん目線にフィットするようなイベントを年4回開催していきたい」と、平井さん。

ウェブサイトをプラットフォームとする、若い子育て世代をメインターゲットにした会員組織を地方新聞社が運営するというのは全国的にも例がないことだけに、今後の展開が楽しみである。同時に、地域社会の公器という性格を持つ新聞社だからこそ、地域への浸透力や普及力が期待できるとも言える。LaLa Okayamaのサイトにアクセスすることで、あるいはそのイベントや交流会などに参加することを通じて、若い母親や父親に子育てすることの幸福感が広がっていくことだろう。

岡山県遊技業協同組合から

いかに子育てに優しい社会を構築していくかは、日本全体に共通する課題だと思います。社会の公器とも言える地元新聞社がそうした活動を行うということで、県遊協でもお手伝いすることにしました。